

都市構造可視化の活用

～都市の現況と課題～



福井県 敦賀市 都市政策課

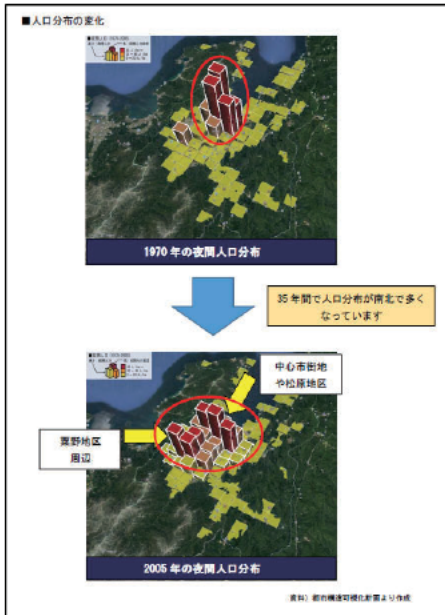
1. 研修参加の目的

- 敦賀市では、平成12年に策定し、平成21年に改訂しました「敦賀市都市計画マスタープラン」に基づき都市づくりを進めてきた。
- 現行計画が2020年（令和2年）をもって目標年次を迎えることから、新たなまちづくりの将来像や方針を定める必要があり、令和元年度から2カ年かけて計画の策定に取り組んでいる。
- 「都市構造の可視化」は、統計データ等（人口分布等）を地図上で高さと色を使って三次元で表現するもので、これにより都市構造の現状や課題を視覚的・直観的に把握することができる。
- 都市計画マスタープランの策定だけでなく、都市計画審議会での円滑な審議遂行を行う上で、有効なツールであるため、研修に参加した。

2. 都市計画可視化の活用状況①

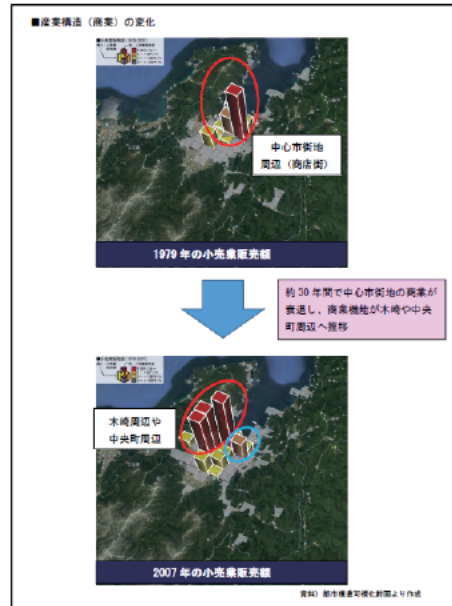
平成31年3月公表、運用開始した「敦賀市立地適正化計画」において、既に都市構造可視化を活用。

●現状と課題「人口等」



i-都市交流会議2020

●現状と課題「都市機能」



3

3. 都市計画可視化の活用状況②

都市計画マスタープラン策定にあたって、第1回策定委員会の開催に向けた受託者との打合せにて活用



i-都市交流会議2020

4

4. 都市計画可視化の活用状況③

第1回都市計画マスタープラン策定委員会において、都市の現状と課題について都市構造可視化を用いて説明

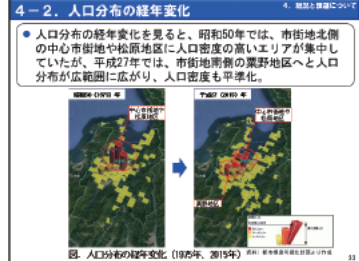


<委員からの声>

- ・初めて都市構造可視化を見たが、非常にわかりやすかった。
- ・人口や商業等、市内でどのように移り変わってきたのかを知ることができた。

i-都市交流会議2020

<説明資料>



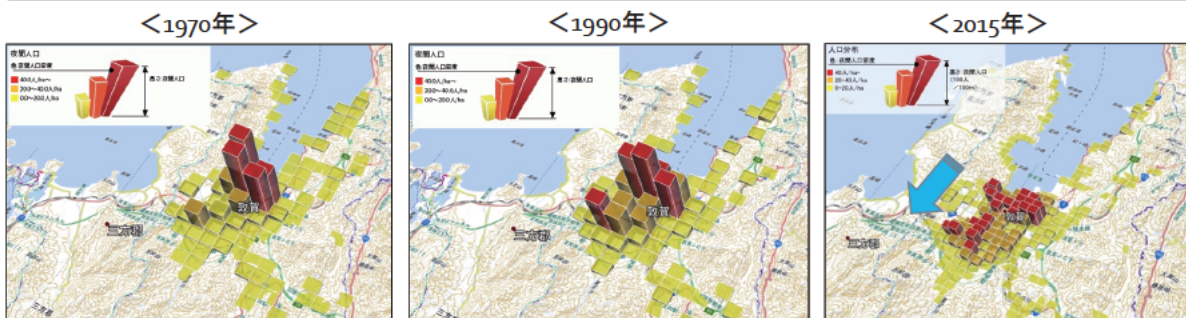
◆用いた可視化データ

- ・人口分布の経年変化
- ・将来の人口分布（65歳以上人口割合）の経年変化
- ・昼間人口分布の経年変化
- ・小売業の販売額分布の経年変化
- ・公共交通利用圏と人口分布の関係

5

5. 都市の現況と課題

人口分布と空き家状況



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用



問題点等

- ・昭和45年（1970年）では、市街地北側の中心市街地等に人口密度の高いエリアが集中していたが、平成27年（2015年）では、市街地南側の地区へと人口分布が広範囲に広がり、市内全体の人口密度が平準化している。
- ・都市計画区域内の空き家の約8割以上が用途地域内に集中しており、市街地北側の中心市街地等における人口減少・空洞化に拍車をかける要因となっている。

i-都市交流会議2020

6

6.まとめ

<効果>

- 都市構造可視化により、視覚的に人口分布等のデータを確認することができた。
- 都市の現況・課題を、策定委員会委員などに対し分かりやすく示し、説明することができた。

<今後の活用>

- 令和2年度は、都市計画マスタープラン策定について、地域住民を対象とした説明会や庁内の関係課員で構成される作業部会などで活用していく。
- 庁内での普及を行い、現状の把握・分析や各種政策の立案などに活用していく。

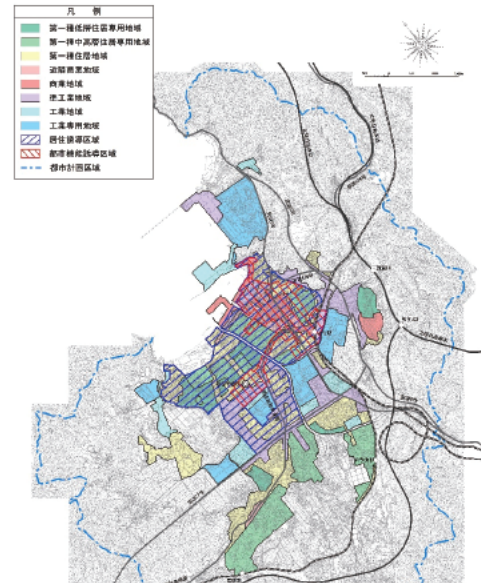


図. 都市計画の状況
(都市計画区域、用途地域)

敦賀市の魅力的な観光スポット

都市の紹介

